

**令和7年度全国水産試験場長会
全国大会（情報交換）**

秋田県における内水面漁業の課題

令和7年11月18日 香川県高松市

内水面部会 東北・北海道ブロック
中林 信康（秋田県水産振興センター）

**秋田県水産振興センター
・内水面試験池**

水産振興センター（男鹿市）湖沼・外来魚対策

内水面試験池（北秋田市）サクラマス・アユ放流・養殖技術開発等

地図出典：国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/vector/>)

R4漁業生産量

■ 河川・湖沼漁業
217 t
漁協数：23

■ 養殖業
35 t

地図出典：国土地理院 (<https://maps.gsi.go.jp/vector/>)

R 4 漁業生産量の構成

河川・湖沼漁業

217 トン

養殖業

35 トン

■ ワカサギ（八郎潟）	■ ワカサギ（十和田湖）	■ ヒメマス（十和田湖）	■ アユ
■ アユ	■ シラウオ	■ コイ	■ その他マス類
■ フナ	■ ウグイ・オイカフ	■ その他魚類	■ ニジマス
■ サクラマス	■ ワナギ	■ ハゼ類	■ その他
■ シジミ	■ その他貝類	■ エビ類	

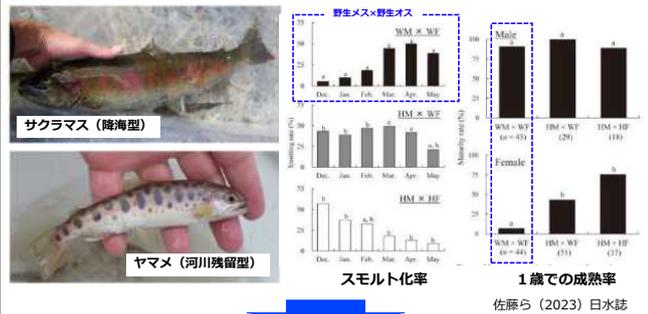
河川・湖沼生産量の推移（H10～R4）

● 組合員：11,259人 → ▲54% → 5,168人へ
● 生産量：799トン → ▲73% → 217トンへ
ワカサギの割合：43% → 93% (=河川漁業減)

養殖生産量の推移（H10～R4）

● 経営体：84経営体 → ▲74% → 22 (R5センサス) へ
● 生産量：367トン → ▲90% → 35トンへ
内訳：ニジマス9トン、その他マス13トン、アユ13トン
コイの割合：H10年は42% → R4統計上－

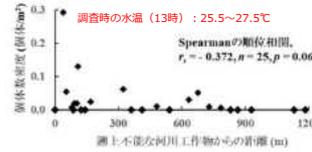
効果的な種苗生産・放流



・県外産ヤマメとの交雑による遺伝的影響が懸念
→親魚の安定的確保、種苗生産の担い手不足・施設老朽化に課題

気候変動・環境変化への対応①

・温暖化による水温上昇は、生息適水温が20℃以下のサクラマスに対し、下流側から越夏・産卵適地の縮小をもたらす可能性がある。



・集中豪雨に対し、アユは、流路幅が狭く、流速が速く、水深が浅く、濁りの消失日数が短い小支流で生息尾数が多く、肥満度も高い。

	小猿部川	阿仁川
生息尾数 (尾/m)	1.57 >	0.04
流路幅 (m)	10.2 ± 2.3 <	43.8 ± 1.6
水深 (cm)	40.9 ± 11.1 <	44.8 ± 13.3
浮き石率 (%)	86.7 >	26.7
濁りの消失日数 (日)	5 <	10
体長 (cm)	14.1 ± 1.6 <	16.2 ± 1.6
肥満度	14.2 ± 1.3 >	13.6 ± 0.9



気候変動・環境変化への対応②

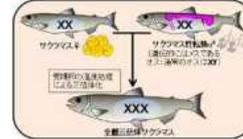
対象種の生活史を通じた生息域の確保
= 連続性の確保 → 魚道機能の維持、汲み上げ放流等



簡易魚道などの方策を開発・実施
→ 労力と経費 → 高齢化・人材不足等 → 普及に課題

養殖業の振興

■ 秋田の大型マス養殖種作出事業



・倍化技術の取得や給餌頻度試験等を経て、現在7事業者で飼育試験中



■ 養殖・種苗生産業者



高付加価値魚の低コスト飼育技術、疾病対策、放流用種苗の安定生産に課題

加害生物による漁業被害

カワウ

R6年：全県で約1,800羽



エアライフル等駆除実績
R4・R5・R6 = 147・63・80

ブラウントラウト



ウライによる駆除実績
R5・R6 = 27・14 (1河川)

ミスワクチヒルゲイツウ



横手川本支流に広く分布
下流域への拡大懸念

効果的・効率的・省力的な対策技術の導入と迅速な普及が必要

ご清聴ありがとうございました。



その他の課題

- ・釣り人口の減少
- ・内水面漁協の維持
- ・生産コスト、放流コストの上昇・・・